

バイカル湖プラス

舞台中央、灰皿スタンドがひとつ。

舞台奥、「吸殻はきちんと始末しましょう」と貼り紙がしてある。

スーツ姿のこのみ(先輩)が灰皿の前に立ち、煙草を吸っている。

上手から、スーツ姿のゆう(後輩)がやってくる。

ゆう あ、先輩

このみ おう。

ゆう ちょうど良かった。

このみ 何、私に用？

ゆう 昨日の。忘れないうちに返そうと思って。(財布を取り出す)

このみ お金貸してたっけ？

ゆう お昼代ですよ。ロースカツ定食スペシャルセット、ミニうどん付き。

このみ ああ。あれな。

ゆう (金を取り出しながら) こういうの早く返さないと落ち着かなくて。

このみ そう？忘れてたよ、私。

ゆう 私はずっと緊張してましたよ…。昼にあんな高いもの食べるの久しぶりでしたからね…。(札を渡しながら) はい、千と…すいません、百円玉ばかりでいいですか？

このみ 何でもいいよん。

ゆう (硬貨を数えて渡しながら) じゃ、一、二、三、四、五、…六百…四十…円と。

ゆう、手のひらの上の金を見ている。

ゆう ちょうどですよ？

このみ …(ゆうに無理に浮かべた感じの笑顔を向け)ああ…うん。

ゆう …何です？

このみ いや…うん、いいのいいの。(金をポケットに仕舞う)

ゆう …何がいいんですか？

このみ いやいや

ゆう 気になるじゃないですか。

このみ 大したことじゃないわよ。

ゆう じゃあ言ってくださいよ。

このみ いや…いいんだよ、ほんとにいいんだけどさ。

ゆう はい。

このみ 千六百…八十円だけだね、ほんととは。

ゆう …八十円？

このみ いやだからいいの、別に。

ゆう ロースカツ定食スペシャルセット、ミニうどん付きは千六百四十円でしたよ。

このみ いや、ロースカツ定食スペシャルセット、ミニうどん付きは千六百八十円なの。それは覚えてる。

ゆう レシートありますか？

このみ ないわよ、そんなの。だけどロースカツ定食スペシャルセット、ミニうどん付きは千六百八十円！

こればかりは間違いない。

短い間

ゆう ま、先輩がそうおっしゃるなら。

ゆう、財布から四十円を取り出す。

ゆう (硬貨をこのみに渡して) はい。

このみ (受け取りながら) おう…なんか、悪いね。

ゆう ま、ここはひとつ大人になりますよ。

このみ 何それ。

ゆう 先輩を立てるのが、後輩のつとめですから。

このみ 何よそれ。あのね、言っとくけど、ロースカツ定食スペシャルセット、ミニうどん付きは間違なく千六百八十円だからね。

ゆう …(優しく諭すように) ロースカツ定食スペシャルセット、ミニうどん付きは千六百四十円なんです、本当は。先輩には悪いけど。

このみ (苦笑いし) どこからその自信が？

ゆう バイカル湖、プラス二十ですから。

このみ …バイカル湖？

ゆう 世界で一番深い湖ですよ。

このみ それが何？

ゆう バイカル湖の最大水深は千六百二十メートルなんです。それにプラス二十！っておぼえてたんですから絶対間違いない。

短い間

このみ ……そこまで自信があるなら。

このみ、四十円をゆうに返す。

ゆう (受け取って)……なんか、すいません。

このみ 華いや……まあ私も、可愛い後輩の顔をつぶす気はないから。

ゆう ……信じてないんですか？ ロースカツ定食スペシャルセット、ミニうどん付きが千六百四十円というのは、紛れもない事実ですよ。

このみ ……いつ覚えた？

ゆう はい？

このみ バイカル湖の深さだよ。

ゆう 小学校六年のときです。

このみ 古いね。信じなくても、そんな古いデータじゃあね。私のほうはついこの前だよ。

ゆう は？

このみ そんな昔のデータより、はるかに確かよ。

ゆう バイカル湖のデータですか？

このみ 前川さんの身長。

ゆう は？

このみ うちの課の、派遣できてる女の子だよ。背の高い子いるでしょ？

ゆう あ、知ってますけど……何の話です？

このみ 彼女、百六十八センチあるって言ってた。千六百八十ミリだ。ロースカツ定食スペシャルセット
ミニうどん付き千六百八十円、という数字を見たとき私は、ああ、前川さんの身長と同じだ、と
即座に思った。

ゆう …

このみ だから間違いないんだよ。おわかりいただけたかな？

短い間

ゆう、このみに四十円を返す。

このみ 悪いな、なんか。

ゆう …いいえ。

このみ 何も私、四十円が借しいってわけじゃないんだよ。

ゆう 私ですよ。だからいいです。四十円くらい。先輩にあげます。

このみ いや、あげますって何よ。

ゆう そんな四十円くらいで、先輩とのいい関係を壊したくありませんし。

このみ 壊れかけてるよ。

ゆう 先輩、今おいくですか？

このみ 三十二よ。そりゃ大人気ないかもしれないけど…。

ゆう 私は十二のときにバイカル湖の深さを知りました。

このみ だから？

ゆう 十二歳ですよ。脳みそのいちばん柔らかい、一度覚えたことは決して忘れない時期です。たと
え様々な環境の変化がバイカル湖をいかに変えようとも、私のインプットした水深千六百二十メ
ートルという数字は不滅なのです。したがって、千六百二十プラス二十イコールロースカツ定食

スペシャルセット、ミニうどん付き千六百四十円、という数式には、いささかの間違いもありません！

短い間

このみ、ゆうに四十円を返す。

ゆう (手のひらにおかれた硬貨を見ながら) これだけは信じていただきたいんですけど…。

このみ (何か考えながら) ン。

ゆう 私は何も、先輩の顔をヘコませようと思ってるわけじゃありませんから。

このみ (考えている)

ゆう しかし、こだわることはないとしても…

このみ プラス二十って何よ？

ゆう はい？

このみ そりゃ、バイカル湖は千六百二十メートルかもしれねえよ。でもプラス二十って何よ。そこに問題があるんじゃないの？

ゆう 問題ありません。

このみ プラス六十の間違いでしょう。それならロースカツ定食スペシャルセット、ミニうどん付き千六百八十…

ゆう プラス二十です！間違いありません！

このみ なんでそう言い切れるの？

ゆう 成人式は、はたちです。二十歳です。

このみ …成人式？

ゆう バイカル湖プラス二十と簡潔に言いましたが…本当は私、「バイカル湖プラス成人式」、って覚えてたんです。

短い間

このみ：言っとくが。

ゆう はい。

このみ 前川さんの身長は間違いなく百六十八センチよ。

ゆう はい。

このみ バイカル湖でも成人式でもなく、ズバリ百六十八センチ！千六百八十ミリよ。つまり、誰がなん

と言おうと、ロースカツ定食スペシャルセット、ミニうどん付きは千六百八十円なんだよ！

ゆう あ。
千六百八十円というのは：

このみ おう。

ゆう 先輩が頼んだヒレカツ定食スペシャルセット、ミニうどん付きです。

このみ …。

ゆう 四十円を握り締める
溶暗

バイカル
湖
レストラン